

「学習の3段階理論」

ー「定着」とは何か、そのポイントを考えるー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：①「理解」→②「定着」→③「応用」という「学習の3段階理論」の2番目にあたる「定着」とは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)「定着」とは、授業や自分で勉強して「うん、なるほど」と一度「理解」したことを「よく身に付ける」こと・「よく覚える」こと、つまり「暗記」してしまうことです。

Q：「定着」の内容とは、どんなことですか。

A：「定着の内容」は、3つあります。

- ①「うん、なるほど」と一度「理解」した内容を、何も見ないで口をついてスラスラ正確に言えること。
- ②一度「理解」した内容を、何も見ないで楷書(かいしょ)で正確に書けること。
- ③教科書にあるくらいの基本的な「例題」や簡単な問題は、問題を見た瞬間に条件反射で答えが出せること。

学校や開倫塾などの授業で、また、自分で勉強していて、「うん、なるほど」「これはこういうことだったのか」と「よく分かり」「腑(ふ)に落ち」一度は「理解」することができたことでも、「アッ」という間に忘れてしまうことが多いのが、人間の悲しさです。時には一度「理解」したことがあとになってから正確にスラスラ言えたり、楷書で書けたり、それを使いパッと問題が解けたりすることもあります。それはとてもめずらしいことで、大半は「アッ」という間に忘れてしまいます。

だからといって、あきらめてしまっただけでは何事もそれで終わりです。そこで、「理解」したことを「よく身に付ける」「よく覚える」、つまり「暗記」することが望まれます。開倫塾では、このことを「定着」と呼んでいます。

その「定着」の中身とは何かを示したのが、上の①～③です。どうか声に出してよく読み、まずは「理解」し、次に①～②で示したように、口をついて正確に言えるようにし、さらにそっくり楷書で書けるまでにして下さい。

Q：「定着」の第1、①「『うん、なるほど』と一度『理解』した内容を、何も見ないで口をついてスラスラ正確に言えること」とはどういうことですか。少し説明して下さい。

A：例えば、小学6年生や中学3年生の「社会」や「公民」で、「日本国憲法の三大原理は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義である。」ということを学校や開倫塾の授業で勉強したり自分で勉強したりして、一度は「うん、なるほど」とその内容をよく「理解」したとします。「日本国憲法」とは、「三大原理」とは、「国民主権」とは、「基本的人権の尊重」とは、「平和主義」とは何なのか、それら1つ1つの語句の意味やこの文全体の意味を「うん、なるほど」と一度はよく「理解」したとします。しかし、「うん、なるほど」とよく「理解」したことと、これらの内容が「よく身

に付いている」「よく覚えている」「暗記」できているかということは全く別のことで、すぐに忘れてしまうことが多いのも事実です。

では、どのようにしたらよいかということで考え出されたのが、この「学習の3段階理論」の2番目の「定着」という考え方です。

この考え方のまず第1は、一度「うん、なるほど」と「理解」した内容「日本国憲法の三大原理は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義である。」を、何も見ないで口をついてスラスラ正確に言えるまでにすることです。

では、どのようにすれば口をついてスラスラ言えるまでになるか。ここから先は自分でお考え下さい。この文章を声に出して一語一語正確に読めるようにすること、ゆっくり何回もボソボソと声を出して読んでみる、何も見ずに言えるか自分で確かめてみる、自分のペースで焦ることなく何回も何回もやってみて下さい。内容については一度「うんなるほど」とよく分かっているつまり「理解」しているのですから、全く分かっていないこと・「理解」していないことよりは覚えやすいと思います。

何も見ないで口をついてスラスラ正確に言えるようになったら、次はその内容を要らない紙の裏などに「楷書(かいしょ)」で書いてみましょう。「日本国憲法の三大原理は、国民主義、基本的人権の尊重、平和主義である。」と、すべて楷書(かいしょ)で正確に書けましたか。難しい漢字が多いので、すべてを楷書(かいしょ)で正確に書けた人は少ないのではないかと思います。

しかし、ここに書かれている内容は、日本という国はどのような国であるかをとらえる上で最も大切なものですので、その内容を一語一語、まずは「うん、なるほど」と「理解」し、次に「正確に覚える」つまり「定着」させ、正確にスラスラ言えるように、また正確に書けるまでにすることが日本国民として大事です。また、中間試験や期末試験だけではなく、実力試験、入学試験、就職試験、公務員試験、国家試験などありとあらゆる試験にこの内容が出題されます。ですから、スラスラ口をついて正確に言えること、加えて、楷書(かいしょ)で正確に書けることが求められるのです。

では、どのようにすれば楷書(かいしょ)で正確に書けるようになるか。それには、書けるようになるまで、何回でも何十回でも「書き取り練習」する以外にはありません。あきらめることなく、書き取り練習を何回も何十回も繰り返せば必ず書けるようになります。

その日のうちに書けるようにならなかったり、また忘れてしまったりしたら、再度やり直して書き取り練習をすればよいのです。あきらめさえしなければ、必ず楷書(かいしょ)で正確に書けるようになります。「忘れる以上に覚えよう」これは、旺文社の赤尾文雄社長のことばです。忘れることを恐れずに「忘れる以上に覚える」の精神で、書き取り練習をすることです。「書き取り練習」をするときには、書き取っている内容をブツブツ小さな声で読むこともお忘れなく。「手」と「耳」と「口」をすべて使うことが、覚えることに役立ちます。

Q：なぜ、開倫塾では、「楷書(かいしょ)」で書くよう強調するのですか。

A：よい質問ですね。書いたものは他人に見て頂く場合もありますから、誰に見て頂いてもよく分かる方がよいのです。特に「試験」では、答案を採点する試験官に正しく読んでもらえなければ合格できませんので、大量の答案用紙を採点する試験官が読んでよく分かる文字で書く方がよいということです。

このように考えると、とりあえず「定着」の段階では「楷書(かいしょ)」で文字を書く練習をするとうよいと思います。

いくら自分のお気に入りだからといってマンガ字やクセのある文字で答案や作文、論文、公式な

文(例えば「履歴書」)、年長者や上司へのメモなどを書いたのでは、よい印象は持たれず、試験でも仕事でも先に進まなくなります。自分以外の他人が読める文字、その中で1番読みやすいのが「楷書(かいしょ)」です。

「楷書」とは、この私の文章に書かれているような書き方の文字を言います。学校や開倫塾の「教科書」、「新聞」で使われている文字です。

先ほど例にあげた「日本国憲法の三大原理は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義である。」をていねいに楷書で書いて練習してみてくださいね。

Q：英語のスペリングも書き取り練習をするのがよいのですか。

A：当然です。日本語も外国語も区別はありません。ことばは「読む練習」が済み、よく読めるようになったら、ブツブツと小さな声に出しながら書き取り練習をして覚えるのは万国共通で、どんな言語でも変わりません。

英語を学ぶ場合も、「うん、なるほど」と一度「理解」したものは、次から次へと口をついてスラスラ正確に言えるようにし、一つの文ごと、できれば一つの文章ごと、つまり教科書の半ページか1ページ分くらいずつ正確にスラスラすべてを言えるようになったら、書き取りの練習をして下さい。

書き取り練習は、次のようにやるとよいでしょう。

(1)意味は分かっているが書けそうもない単語があったら、書く練習をする。何回も何十回も書く練習をする。例えば、「important(重要な)」や「difficult(難しい)」などの単語は、意味は「理解」していても、見ただけでは正確に読むこともまして書き取ることもできないのが普通です。ですから、まずは何回も何回も読む練習をして正確に読めるようにし、次に小さな声でブツブツ発音しながら正確に書けるようになるまで書き取りの練習をすることです。このように、まずは意味は分かるが読めそうもない単語を読めるようにして、それから書き取りの練習をして書けるようにすることです。

(2)次に、1つの文の意味が「うん、なるほど」と一度「理解」できたら、その文を口をついてスラスラ正確に言えるようにし、言えるようになったら何も見ないで書いてみましょう。

正確に書けたらそれでOKですが、もし一語でも正確に書けないものがあったら、ためらうことなくその単語の書き取り練習をして下さい。その単語が正確に書けるようになったら、何も見ないでもう一度その文を書いてみましょう。一語も間違えることなく正確に書けたらOKです。

(3)最後に、教科書の1つの章、つまり文のまとまりに挑戦しましょう。1つの章のすべての文の意味が正確に分かったら、章全体を大きな声で読む練習をしましょう。英語は、大きな声で読むことがよい練習になります。正確に読めるようになったら、その章のすべての文をはじめから正確に覚えて口をついてスラスラ言えるまでにしましょう。「そんなことできるわけがないよ」ですって。そんなことはありませんよ。次のようにやってみて下さい。

その章には、「Aの文」「Bの文」「Cの文」「Dの文」「Eの文」と全部合わせると5つの文があるとします。このAからEまでの5つの文を正確に覚えて、口をついてスラスラ言えるようにするには、以下のようにします。

- ・まず、「Aの文」をスラスラ言えるようにします。
- ・「Aの文」が言えるようになったら、次に「Bの文」をスラスラ言えるようにします。
- ・「Bの文」が言えるようになったら、次に「Cの文」には進まないで、「A」と「B」の2つの文が続けてスラスラ言えるようにします。

- ・「Aの文」と「Bの文」の2つの文がスラスラ言えるようになったら、「Cの文」がスラスラ言えるようにします。
- 「Cの文」がスラスラ言えるようになったら、「Dの文」には進まないで、「Aの文」「Bの文」「Cの文」の3つの文が続けてスラスラ言えるようにします。
- ・「Aの文」「Bの文」「Cの文」の3つの文がスラスラ言えるようになったら、今度は「Dの文」がスラスラ言えるようにします。
- ・「Dの文」がスラスラ言えるようになったら、「Eの文」には進まないで、「Aの文」「Bの文」「Cの文」「Dの文」が続けてスラスラ言えるようにします。
- ・「Aの文」「Bの文」「Cの文」「Dの文」がスラスラ言えるようになったら、最後の「Eの文」がスラスラ言えるようにします。
- ・「Eの文」がスラスラ言えるようになったら、「Aの文」「Bの文」「Cの文」「Dの文」「Eの文」すべてがスラスラ言えるようにします。

Q：なるほど、1つ1つの文を重ね合わせながら覚えて、口をついてスラスラ言えるようにしていくのですね。時間がかかりそうで大変ですね。

A：一度、最近学校や開倫塾の授業で勉強し、よく「理解」したと自分で思っている英語の1つの章を使って試してみてください。意外と短い時間で覚えられ、口をついてスラスラ正確に言えるようになりますよ。

次に、1つの章のすべての文、前記の場合なら「Aの文」から「Eの文」までの5つの文がまとめて口をついてスラスラ言えるようになったら、何も見ないでそれらの文をできるだけいねいに書いてみて下さい。5つの文とも一語残らずすべて正確に書けたらOKです。

もし、正確に書けない語が一語でもあったら繰り返し書き取りの練習をして、もう一度5つの文すべてをできるだけいねいに書いてみます。このようにして5つの文すべてを正確に書けるようにすることが、「定着」の②です。

Q：英語の場合は、どのような文字で書いたらよいのですか。筆記体ですか、それともブロック体ですか。

A：日本語の楷書に当たる文字、つまり誰が読んでもよく分かるクセのない、ひとりよがりでない文字ならどちらでもよいと思います。少なくとも、教科書で紹介されているブロック体は必ずマスターすること。できれば、筆記体でも書けるように練習しておくとういでしょう。筆記体を全く知らないと、筆記体で書かれた文字を読むことができずに困る場合があります。将来、サインをする場合など、ブロック体だとすぐまねをされてしまうので、他人にまねをさせないために筆記体で書く場合が生じるかもしれませんので、筆記体も練習して、せめて自分の氏名くらいはいつでも書けるようにしておいた方がよいかもしれません。

ところで、「筆記体」や「ブロック体」の書き方も大切ですが、「句読点(くとうてん)」、「コロン」、「ハイフン」、「括弧(かっこ)」などの使い方や、「辞書の引き方」も身に付けた方がよいと思います。

ーこの項続く。ー

ー 1月6日記ー